

2023年3月26日
第2回 阪神ダルクに関する住民説明会
尼崎市立明城小学校 14:00～

地域住民様各位

(一社) かえでの会 (事業所名 阪神ダルクホーム)
代表理事 濱津 太一

阪神ダルクホームの活動及び前回住民説明会で頂いた意見に対する考え方等について

1 はじめに

阪神ダルクホームは、昨年11月より指定共同生活援助（グループホーム）として、依存症者の回復支援及び社会復帰を目的とし、精神障害者（依存症者）（薬物だけでなく、アルコール、ギャンブル、買い物、ゲーム、ネット等）を対象とする方々への回復支援を行ってきました。

私たちの活動を地域の皆様にご理解いただくことが必要不可欠であると認識しておりますが、活動開始当初から、入所者が万引きで逮捕される事態となり、地域の皆様にご不安ご心配をおかけしてしまい、大変申し訳ございませんでした。

今後は地域住民の皆様の不安を解消できるよう、できる限り活動をオープンにしていきたいと考えております。利用者の個人情報（住民の皆様へお伝えすることは難しいですが、可能なことは行っていく所存でございます。

2 私たちが実行していくこと

私たちは、以下を実行して参ります。

① 利用者情報の開示

新規利用者が入所しましたら、町内の会長様、反対の会ご担当者様に、利用者から了承を得られる限り、また、利用者のプライバシーに配慮しながら、当該利用者の個人情報（依存対象、年齢など）を報告いたします。また新規利用者の入所予定時期が事前にわかっている場合には、その旨も事前にお伝えいたします。入所者が保護観察付きであれば保護司のもとへ一緒にご挨拶に伺います。

② 礼節を欠かないよう指導する

入所者には、地域の中で生活していることの自覚を促し、また地域の方々との適切な交流を図るため、地域の皆様に対して礼節を欠く行動をしないよう指導するとともに、日常での挨拶を心がけるよう指導します。

③ 地域活動への参加

地域活動で協力できることがあれば積極的に参加します。（地域交流を深め自分の居場所を見出すことが依存症克服の1つの要因になりますのでご理解ください。）

④ 関係機関との連携

各自治体の保健センターへも入所者の情報を提供させていただき、万が一、利用者に何か問題が起これば各関係機関（警察も含む）と協力して対応します。

⑤ 子どもたちの安全・安心への配慮

入所者には、お子さまたちが登校を終える朝8時までは外出を控えるよう指導します。また、入所者の門限も22時としております。（但し、やむを得ず時間外に、外出した場合は反対の会様、町内会長様にすぐにご連絡させていただいております。）

⑥ 医療機関との連携

提携医療機関（精神科）とも協力して利用者支援をします。入所者に何か問題があれば提携医療機関に協力を求め支援を展開します。

⑦ 地域への貢献

定期的に公園や地域の道路等のゴミ拾いをしています。

3 これまでは、「利用者の居住の自由」や「逮捕者の詳細も個人情報」という観点で入所者の情報開示は基本的にしておりませんでした。しかし、グループホームも地域とのかかわりの中で存在します。そのため、入所者に地域との交流を深めて社会性を養ってもらうために、利用者のプライバシーに対する配慮をしながらも、どのような人が入所しているかが分かる程度の情報は共有させていただきたいと考えております。

4 前回の説明会での皆様からのお声を聴きますと、入所者が狂暴で住民に何かをする人と思われるかもしれませんが、入所者は「入院が必要でない方」や「刑期が終了した方」や「普通に生活できるが何らかの依存症があり立ち直りたい方」など、基本的には、社会内の地域で暮らせる状態の方々です。危険であるとか危害を加えるのではないかなどのお考えをもたれているようでしたら、多くの場合、偏見に基づくものと考えております。入所者が、住民に何らかの危害を加える可能性は極めて低いと考えています。

5 私たちのところに寄せられる相談では、尼崎市民からの相談も多く、また、交通の便を考えても、尼崎市に依存症回復支援施設を設けることが社会的に見て有益であると考えました。尼崎市内で物件を探していたところ、ようやく見つかった物件が、築地の物件でした。

6 私たちは、地域で暮らせる方を対象に入所の受け入れをしております。入所者には、精神障がいがあるため必要な支援が必要ですが、一般に暮らしている住民と変わらないと思っています。入所者は、社会復帰を目指している方ばかりで、住民の方々にご迷惑をおかけにしに築地に来るわけではありません。依存症からの回復支援は、社会的に有意義な活動であると考えております。どうかご理解のほどよろしくお願いたします。

メッセージ ～繋がり～

なぜ、人は依存物質に走るのでしょうか。その最大の誘因は**孤独**です。愛の欠如です。孤独という名の檻の中で、絶望し、もがき苦しんでいる者が、依存物質に癒しを求めるのです。幸せは、人との繋がりの中にあります。家族、友達、学校、職場、地域、さまざまな場で、人とつながり、充実した人生を歩んでいる人は依存物質を求めません。現代人の多くは孤独を抱えています。その孤独な心の隙間を埋めようとして、依存物質を使用し、気づいた時には、社会からドロップアウトし、独りになるのです。孤独を抱えた依存者は、犯罪者としてのレッテルをはられ、さらに孤独に陥り、心の病は深刻化します。

では、どうすれば依存者は回復するのでしょうか。人と人との繋がりです。繋がりを大切にする仲間は無条件に受け容れられ、互いに愛し、愛されることで、依存者の心の回復が得られるとダルクは考えました。ダルクは、多くの依存者に、回復のチャンスを提供している民間の依存症リハビリテーション施設です。35年の実績を持ちます。スタッフのほとんどは当事者であり依存症からの回復者です。依存者の心を誰よりも深く理解しています。ダルクでは、グループ・ミーティングを基本に回復に必要とされるプログラムを提供し、同じ問題を抱えた仲間と一緒にプログラムを行うことで、一人では向き合うことが難しかったさまざまな問題に向き合い、生き方を変えていきます。また、社会の中で「誤解と偏見」にさらされ、孤立している依存者が、回復を果たした依存者と出会い、繋がることで自らの可能性に気づく場を提供しています。そして何より、孤独を抱えている依存者は地域社会の理解や応援という繋がりを感じることで孤独が癒され回復していきます。

いまや、アディクション（依存症）の問題は、アルコールや薬物問題のような物質への依存に限らず、ギャンブル、買い物、セックス、摂食行動、窃盗行為、インターネット、携帯電話など、特定の行動に「非合理に耽溺（たんでき）する（嗜癖する）」ことがあるということに人びとが気づき、嗜癖行動からの回復のためには、当事者の主体性を尊重した支援が必要である、ということが共通認識になっています。厚生労働省の2017年度調査によると、生涯でギャンブル依存症が疑われる人は推定320万人。この数字は成人人口の3.6%にあたり、28人に1人がギャンブル依存症の疑いがあることを示しています。昨今、ギャンブル依存症問題が注目されておりますが、日本におけるギャンブル依存症からの回復環境はまだまだ整っていないのが現状です。また特に今、若者を中心に、コロナ禍に伴う巣ごもりや引きこもりから依存問題への進行が増えていると言われております。違法薬物から薬局で売られている市販薬や医師が処方する精神薬に変わっており、若者の居場所や健康被害に対して何かしなければならぬ、大切な時期だと感じています。

わたしたちは、多様なアディクション（依存症）に関連する問題を解決するために、わたしたちのできることを一つずつやっていくことで、ひとりでも多くのアディクト（依存者）の回復に寄り添える社会を作っていきたいと考えています。

わたしたちは、「依存者あるいはこれに類する状態の人が、個人の尊厳を保持しつつ、地域社会において、自立した生活を営むことができるよう、回復支援、社会復帰支援及び再発予防の諸活動を推進するとともに、その家族等の抱える諸問題の解決を支援するため、行政、医療、福祉、司法、教育機関などとの連携を図り、当事者、家族等及び地域社会の人びとが、健全で、安心できる明るい社会を作っていくこと」を目的としています。

何卒、ご理解・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

[2022年10月15日開催の説明会での質問に対する現時点での回答]

- ① 今後も説明会を開催してほしい。参加したかったができなかった者も多い。

今後も、三者協議を重ね、必要に応じて説明会を開催して参ります。

- ② 「禁止事項」は当たり前のこと。なぜ薬物に寛容なのか？

依存症は、精神障がいであり疾病です。罰ではなく、治療が必要です。

- ③ 施設を開設する前に、地域住民に説明するべきでなかったか？

おっしゃる通りであり、配慮が足りなかったと考えております。お詫び申し上げます。

- ④ 薬物依存症を支援する施設であることを隠していたのではないか？

隠す意図はございませんでしたが、説明が足りなかったと考えております。重ねてお詫び申し上げます。

- ⑤ ダルクが考えている「地域」と、築地の皆様が考えている「地域」に乖離があるの

ではないのか

依存症を含め精神障がい起因する症状からの回復には、地域の方々との間で、良好な関係を築き、受け入れていただく必要があると考えております。築地の方々はもちろんのこと、広く尼崎市、阪神地域が、ご理解ご協力賜りたい「地域」であると考えております。築地という「地域」で活動をする以上は、築地の方々に受け入れていただけるよう努力を重ねて参ります。

⑥ なぜ公園の前に施設を設けたのか？

利用者は、地域で暮らせる方を対象にしております。利用者が、住民の皆さまに危害を加える可能性は低いと考えております。したがって、公園の前に施設を設けたことで、地域の安全や安心が害されることはないと考えております。むしろ、利用者が地域で暮らしていけるように、住民の皆さまとの良好な関係を築いていくことが重要であると考えています。

⑦ 入所の利用者は4名のみなのか？もっと来るのではないのか？

入所の定員は4名です。利用者以外には、見学、相談、内覧には来られる方がいます。

⑧ 公園で子供たちが遊べなくなった。たばこを吸われるのは困る。

不安な気持ちにさせてしまい申し訳ございません。もっとも、他の地域でダルクがあることにより、子どもたちに危害が加えられたという事例は聞いておりません。また、現在、公園やその近辺でたばこを吸わないように指導を徹底しており、実際に、公園やその近辺でたばこを吸っている利用者はおりません。

⑨ 子どもたちにどのような言葉で説明すればいいのか？

依存症も精神障がいであること、精神障がいはその人が悪いのではなく、様々なやむを得ない事情により罹患する病気であり、誰もがなりうること、その病気を克服するためには地域の方々がそっと見守ることが重要であることを説明いただければ幸いです。

⑩ 地域住民と信頼関係を築けると思っているのか？

信頼関係を築けるよう努力して参ります。ご理解ください。

⑪ 地域で賛同者がいると考えているのか？

賛同者が増えるよう、私たちの活動の意義をご説明する努力を続けて参ります。

⑫ なぜ尼崎に作るのか？築地に作らなくてよかったのではないかな？

尼崎市民からの相談もあり、阪神間において交通の便の良い尼崎市内に依存症回復支援施設を開設する意義があると考えました。物件を探しておりましたところ、たまたま築地に物件が見つかり、交通の便がよく都市部にあることから、回復支援施設としての条件が良いと考え契約しました。

⑬ 指定を取る前から、人を入居させたところ、その人が事件を起こしたことについて

どのように考えているのかな？

その人物は、行き場所がなく緊急的に支援が必要でしたのでやむを得ず受け入れました。しかし、逮捕される事態となったことで、地域住民の方々の不安を高めることになったことは承知しております。今後は、地域住民のご迷惑にならないよう指導を徹底して参ります。

⑭ 園田でダルクを運営していたが、撤退したのに、なぜまた築地で行うのかな？

阪神ダルクとは別法人です。園田のダルクが撤退した事情については、承知しておりません。

⑮ 阪神尼崎は、飲食店が多く、また競艇もあるが、このような場所で回復できるのかな？

このような場所こそ、依存症からの回復に適していると考えております。
